

緑を取り込み、人々を繋ぐ駅



22010108 小山桃香

埼玉県ほぼ中央に位置する滑川町は、都心まで1時間以内という利便性や豊かな自然を活かした観光地の存在から、首都圏のレクリエーション地域として発展してきた。子育て支援の手厚さや豊かな自然が特徴であり、住みやすい町として成長してきている。しかし、町の入り口となる森林公園駅は閑散としており、由来となった「森林公園」との関係性も希薄。人が集まり、町を知る場所として機能していない。そこで、地域の特性を活かした「町の顔」となり、「滞在するきっかけ」となる駅を計画する。

滑川町について

埼玉県のほぼ中央に位置し、全地域の60%がなだらかな丘陵地から成る。滑川を境に、北部は農業地帯、南部は工業地帯・住宅が広がる。北東部には国営武蔵丘陵森林公園があり、様々な観光客が訪れる。古くから首都圏のレクリエーション地域として発展を遂げており、近年では人口増加率が県内1位、住み続けたい街県内2位になる程成長してきている。

国営武蔵丘陵森林公園

昭和34年に明治百年記念事業の一環として開園した全国初の国営公園。雑木林を中心に、池沼、湿地、草地など多様な環境があり、貴重な動植物が生育、生息する。また、サイクリングコースやアスレチック、ドッグランなどアクティビティも充実している。季節の植物や紅葉、イルミネーションを楽しめる、幅広い年齢層が訪れる観光地となっている。



計画敷地 東武東上線 森林公園駅

所在地:埼玉県比企郡滑川町大字羽尾3977-1
 開業年月日:昭和46年3月1日
 乗降人員:10,979人
 建築面積:約1254㎡(駅舎部分)
 建ぺい率:60%
 容積率:200%
 駅名の由来:国営の公園「武蔵丘陵森林公園」の玄関口として開設された。

(選定理由)

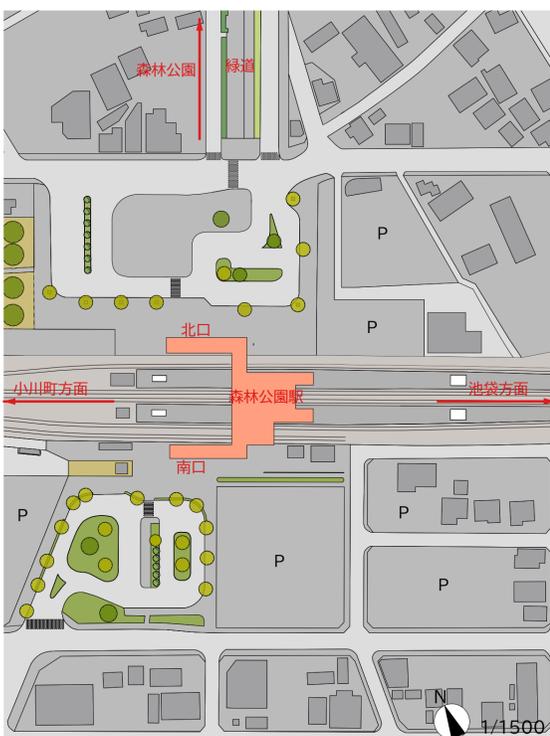
一度も改修されていないことに加え、電車を降りた後にタクシーや車で目的地に向かうといった、駅を交通手段の1つとしてのみに利用している人が多いため、改善する必要があると感じた。また、駅から森林公園まで徒歩40分もあり、関係性を作る必要があると感じた。

(特徴)

- ・始発が多く、都心まで一本で行ける
- ・駅周辺には住宅が広がっている
- ・車庫が近くにあり、電車の出入庫が見れる
- ・駐車場が多く、パーク&ライド対応
- ・自由通路は小中学生の登下校にも利用

(問題点)

- ・周辺建物や店舗がほとんど無い
- ・街灯があまりなく夜は暗い
- ・ベンチや日を守るものがほとんどない
- ・利用者は多いが滞在する人は少ない
- ・由来となった森林公園との関係性が希薄



駅の特徴

Point 1 歩く屋根



遊歩道から広場に降りられる

Point 2 水場・駅前広場



水や植物に癒される

Point 3 遊歩道



緑道の延長であり歩車分離がされている

Point 4 駅前カフェ



電車や景色を楽しみながら食事や会話ができる

Point 5 休憩スペース

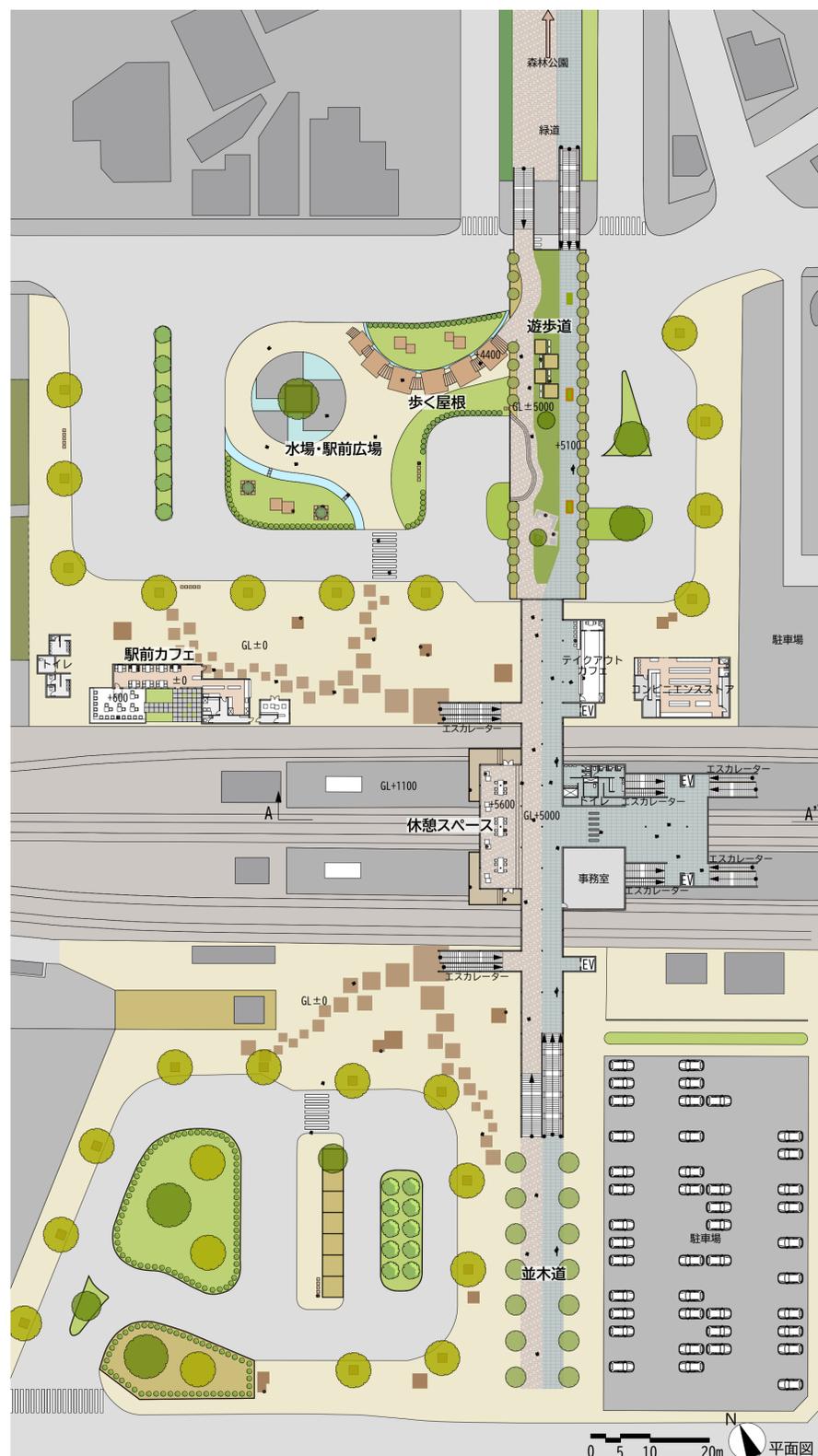


上から電車を眺めながら時間を過ごす

Point 6 並木道



歩きながら景色を楽しめる



0 5 10 20m 平面図

コンセプト

駅と緑道の境界を無くす

観光客や地元の住民が自由に滞在でき、駅前から続く緑道を利用した町の顔となる駅を目指す。既存の緑道を駅の自由通路に取り込むことで「森林公園」との関係性を作り、自然を感じられる駅空間にする。加えて、人々がゆったりとした時間を過ごせるようにカフェやベンチなどの居場所を計画する。森林公園駅を町の顔として機能させ、住人が「住み続けたい」、この地域の良さに触れた観光客が「住みたい」と思ってくれるような駅にすることを目的としている。

ダイアグラム

駅と緑道の関係性を変える



駅舎屋根・駅前の平面デザイン
形が同じ、大きさが異なるボリュームが重なり合ったり散りばめられている。
→植物の葉から連想

駅舎屋根の断面デザイン
重なり合う屋根の高さの異なる部分はガラスで光を取り入れられるように。
→木漏れ日から連想

ホーム屋根のデザイン
駅舎と変化をつけることや雨水の処理を考慮して、カーブした長方形を繋いだU字になっている。
重なる幅を変え単調にならないように計画。

